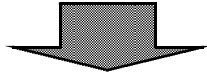


① 地域の小中学校の学校訪問をとおして

○関係行政機関、教育委員会、小中学校長の協力の下、
病弱教育部プロジェクトメンバーによる各校訪問

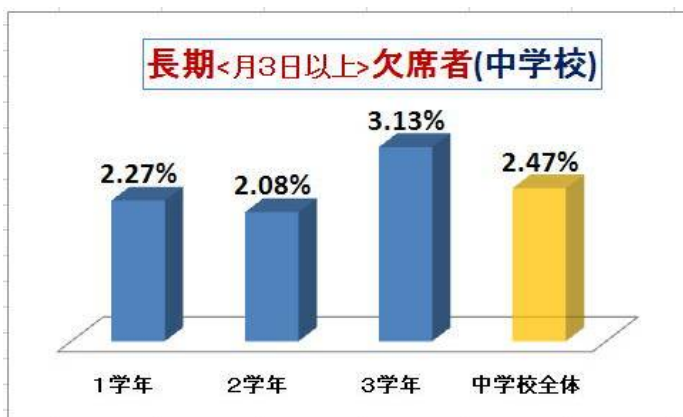
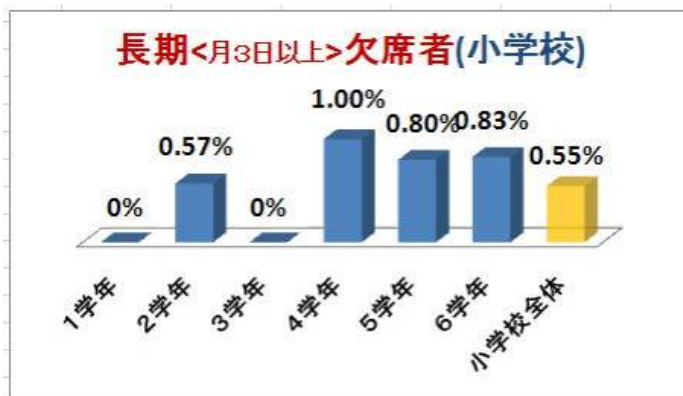


○訪問目的

「地域の病弱児や長期欠席児への支援ニーズの把握」

- ・長期欠席の実態とその理由
- ・病弱児のケース相談
- ・主な小中学校の相談機関
- ・病弱教育部への要望等

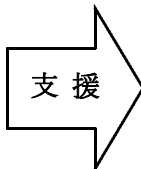
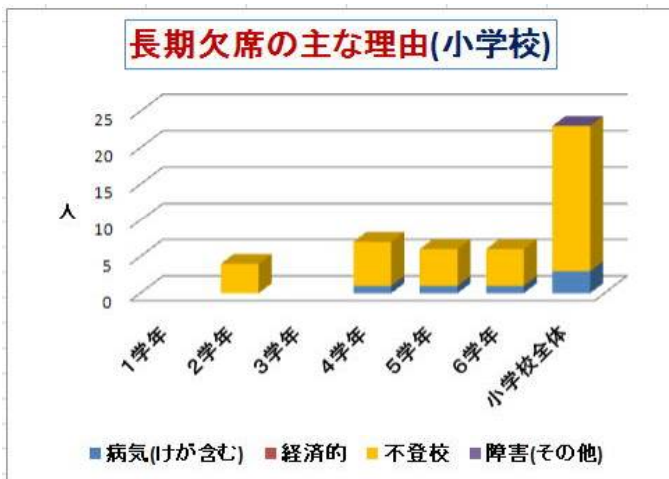
② 訪問結果 平成22年度1学期におけるデータ



支援

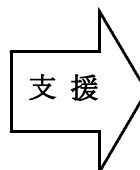
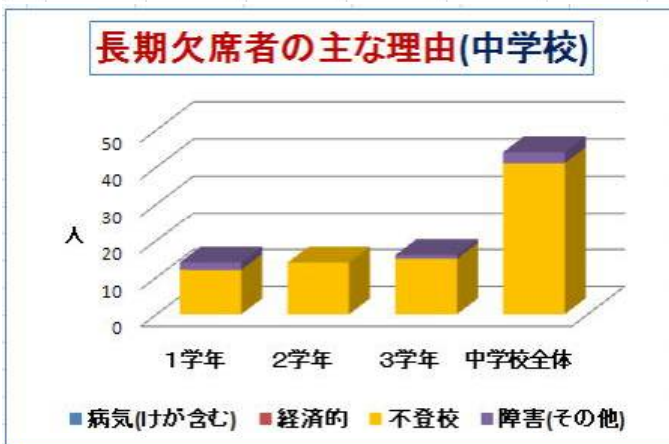
単純比較とはならないが、平成20年度の全国公立小中学校の長期欠席児童生徒の割合(病気、経済的理由、不登校、その他により年間通算30日以上欠席)である小学校0.79%、中学校3.96%とは大きく下回っている。

学年進行と小6年生から中1年生の増加傾向は全国と同様である。小中学校と連携した本校の地域支援として早期発見と対応、関係機関との連携など役割を果たしていきたい。

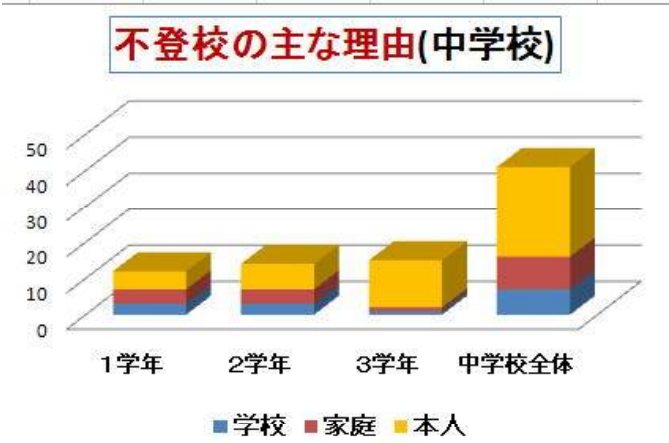


殆どが不登校を主な理由としているが、小学校にある病気や発達障害傾向に対しては本校の地域支援としてアセスメントや個別の指導計画の作成と保護者への支援など中長期的な連携や関係機関との連携など役割を果たしていきたい。

長期の欠席には至っていないが把握できた他の障害のある児童の支援もしていきたい。



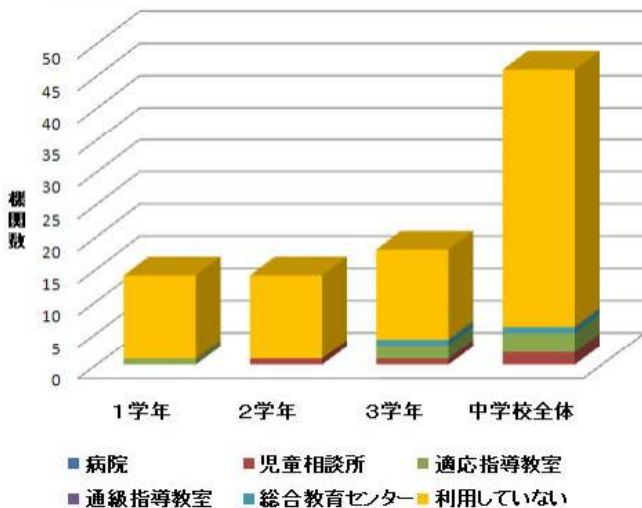
小学校では不登校のきっかけとなった理由として家庭が多い。保護者の不安に対して寄り添い、学校と家庭がそれぞれの役割の中で取り組めるよう支援していきたい。中学校では本人の理由が多くなっている。友人関係や集団との関わり、進路等の不安があり、長期的な不登校になりやすい。適応教室等と連携した支援をしていきたい。



保護者・学校が利用した機関(小学校)



保護者・学校が利用した機関(中学校)



支援

長期欠席の有無に限らず専門機関等の利用状況である。機関の存在やどのような相談・支援に活用できるのかの情報が不足していると思われる。早期のうちに適切な対応ができるようにホームページやリーフレット等により情報発信の工夫を行うとともに、地域の養護教諭会や特別支援教育会等との連携を図りたい。

本校に対する要望等

○小学校

- ・関係機関等と連携をしていることは知らなかった。
- ・進行性疾患について今後相談したい。
- ・脳性まひ、弱視に係わって今後相談したい。
- ・今後も訪問してほしい。PRの仕方を工夫してほしい。
- ・研修会の講師派遣をしてほしい
- ・保護者に対する養護学校の理解を図りたい。

○中学校

- ・担当教員以外は病弱教育部の理解は少ない。
- ・家庭も含めたケースの相談をしたい。
- ・ケースによっては今後見学等を依頼したい。

支援

各校毎に教育的ニーズを受けとめる機会となり、地域支援センター「サポートJOYO」との連携、必要により専門家による巡回相談等による支援を図りたい。日頃から共通理解を図れるネットワーク作りをすすめ、早期対応による児童生徒と保護者への支援をしていきたい。